

#### [4] 研究開発単位IV「GLOBAL STUDIES（詳細）」

##### ●6つの資質・能力を育てる授業改善の取組

このプロジェクトは、中学高校の各授業の中で、本校の定める資質・能力を向上させ、未来行路やSOZAN国際塾での取組の基礎を作ることを目標としている。学校全体で育成する6つの資質・能力を各教科に落とし込み、到達度目標を記した「SOZAN Global Can-do List」を作成した。この中で各教科の「目指す生徒像」を設定し、日々の授業に落とし込み、このリスト活用しながら、生徒側・指導者側両方のPDCAを確立していく。

##### ○1年間の取組

月	事業
4月	SOZAN Global Can-do List の完成 中高合同統一テーマの決定、研究開始 SOZAN Global Can-do List を活用した授業の開始
5月	教科テーマの決定および研究計画書提出 アドバイザースタッフの決定・委嘱 SOZAN Global Can-do List を活用した授業の実践
6月	SOZAN Global Can-do List に沿った授業の実践 岡山操山中学校・高等学校教育研究会（英語）の開催
7月	SOZAN Global Can-do List を活用した授業の実践 GLOBAL STUDIES 会議（進捗状況の共有・計画の確認）
8月	SOZAN Global Can-do List を活用した授業の実践
9月	Global Can-do List を活用した授業の実践 岡山操山中学校・高等学校教育研究会（国語）の開催
10月	SOZAN Global Can-do List を活用した授業の実践
11月	SOZAN Global Can-do List を活用した授業の実践 岡山操山中学校・高等学校教育研究会（国数英理美保体）の開催
12月	SOZAN Global Can-do List を活用した授業の実践
1月	SOZAN Global Can-do List を活用した授業の実践
2月	SOZAN Global Can-do List を活用した授業の実践
3月	GLOBAL STUDIES 総括会議 研究紀要「操山論叢」発行

##### ①SOZAN Global Can-do List の作成

このSOZAN Global Can-do Listは、中・高の教職員間、そして、生徒とも共有しながら、3年間あるいは6年間をかけて、6つの資質・能力を育てるための到達度目標表である。このSOZAN Global Can-do Listの中で示した「目指す生徒像」の育成を目標に、各教科で授業改善に取り組むとともに、継続的に効果の検証および授業評価・改善を図る。

□作成手順とねらい（図1参照）

①学校全体で「目指す生徒像」を共有する。

②そのイメージを「育成する資質・能力」に落とし込む。

\*「認知的スキル」と「非認知的スキル」に大別し、それぞれ3つの資質・能力で表現し、6つの資質・能力を教育活動の中で育てていく。

③さらにそれぞれの資質・能力を具体的なキーワードでイメージを共有する。

④⑤⑥で目指す方向性を昨今のトレンドとの共通点を確認する。

⑦各教科での授業でのイメージをつかみ、日々の授業に落とし込む。

⑧各資質・能力を具体的に捉え、「～することができる」という到達度目標の記述になるよう橋渡しする。(図2参照)

\*この解釈をもとに各教科で各学年での到達度目標を作成することで、目標を共有し、達成度を測る手段を模索しながら、生徒の変容を捉えると同時に、日々の授業改善に役立てていく。

(図1)

①目指す生徒像(全体)						
「和して流れず」・「松柏」の精神で次代を担う高い志を持ち、未来の岡山と世界のWell-beingの実現に貢献するグローバル・リーダー						
②育成する資質能力	認知的スキル			非認知的スキル(社会情誼的スキル)		
	幅広く深い教養	課題発見・解決能力	新たな価値を創造する力	主体的に行動する力	他者と協働する力	自他を尊重する心
③ 具体的資質	・基本的な認知能力 (パターン認識) (処理速度) (記憶力)	・知識の獲得 (探究) (取り出し) (解釈)	・知識の推察 (熟考) (推論) (概念化)	・目標達成 (忍耐力) (自己制御) (目標への情熱)	・他者との協働 (社会性) (尊重) (思いやり)	・感情の管理 (自尊心) (楽観性) (信頼性)
④ 学指導要領との関連	☆知識・技能	☆知識・技能 ☆思考力・判断力・表現力	☆知識・技能 ☆思考力・判断力・表現力		☆思考力・判断力・表現力	
⑤ OECD教育との関連	●知識 ●スキル	●知識 ●スキル	●態度・価値 ●予測・振り返り・行動	●態度・価値 ●予測・振り返り・行動	●予測・振り返り・行動	●予測・振り返り・行動
	●批判的思考力・創造的思考力・学び方を学ぶ・自己調整力			●共感・自己効力感・協働性・社会性		
⑥ UNESCO教育(ESD)との関連		○体系的な思考力 ○代替案の思考力 ○データや情報の分析能力	○体系的な思考力 ○代替案の思考力 ○データや情報の分析能力		○コミュニケーション能力 ○リーダーシップの向上	○コミュニケーション能力
⑦ 各教科との関連	▲教科書・関連素材の理解	▲情報の内在化	▲応用・紐付け	▲自己評価・振り返り ▲計画性 ▲変容	▲グループワーク ▲ペアワーク	▲楽しい ▲充実感
国語	★	★	★	★	★	★
地理・公民	★	★	★	★	★	★
数学	★	★	★	★	★	★
理科	★	★	★	★	★	★
保健体育	★	★	★	★	★	★
芸術	★	★	★	★	★	★
外国語		★	★	★	★	★

(図2)

SOZAN Global Can-do List (教科: )						
目指す生徒像(教科)	認知的スキル			非認知的スキル(社会情誼的スキル)		
育成する資質能力	自身が所属する社会の幸福を実現することができる			自他の幸福を創造し続けることができる		
	①幅広く深い教養	②課題発見・解決能力	③新たな価値を創造する力	④主体的に行動する力	⑤他者と協働する力	⑥自他を尊重する心
⑧ 解釈	グローバルな課題を理解できる国際的な素養がある	グローバルな視点で課題を発見し、論理的に解決策を考え、発信することができる	既存の価値を融合し、自由な発想で新しい価値軸を創ることができる	目標に向かって自主的に考え、自律的に判断し、決断し、積極的にかつ誠実に実行し続けることができる	自己を理解し、自立した人間として、他者と共に心を通じ合わせてよりよい社会の実現を目指すことができる	社会における自己を認識し、自他の存在意義を認めることができる
H3						
H2						
H1						
J3						
J2						
J1						

\*各教科での「目指す生徒像」を設定している。

\*「解釈」の部分は非表示にしてある。

\*J1~H3は中1~高3を示している。

\*図1の各教科の★が示すように、教科によっては資質・能力の枠をつなげて表現しているところもある。

□各教科の SOZAN Can-do List

\* 巻末に資料として掲載する。

②中高の統一テーマの設定

4月に、取組の目標となる中高の統一テーマを次のように設定して取り組んだ。

幅広く深い教養を有し、自ら課題を設定し、その解決のためクリエイティブに思考し、ダイナミックに行動するグローバル・リーダーの育成に向けた取組  
～Sozan Global Can-do List の活用～

この統一テーマのもと、各教科が主体となって教科テーマを設定し、研究計画書に沿ってグローバル・リーダーの育成に取り組んだ。次の表は、各教科の教科テーマである。

教科	教科主題
国語科	SOZAN Global Can-do Listを活用した授業改善の取組
地歴公民科 社会科	SOZAN Global Can-do List を活用した授業の展開と評価
数学科	授業で育てる資質を踏まえた課題学習における教材開発
理科	効果的な仕掛けづくりとその検証法の開発
保健体育科	自ら進んで問題解決に取り組む姿勢の育成
芸術科 (美術)	グローバル・リーダーの育成に向けた取り組み ～主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度の育成～
英語科	技能と教養をバランスよく伸ばす指導法の研究 ～生徒の振り返りを活用した授業改善～

③アドバイザースタッフによる研究

7つの教科でアドバイザースタッフを大学にアドバイザースタッフ(全7名)を依頼し、1年を通じて、授業改善に向けた指導をしていただいた。

教科	アドバイザースタッフ
国語科	ノートルダム清心女子大学文学部 教授 伊木 洋
地歴・公民・社会科	ノートルダム清心女子大学文学部 教授 河合 保生
数学科	岡山大学大学院教育学研究科 教授 岡崎 正和
理科	岡山大学大学院教育学研究科 特任教授 三宅 正志
保健体育科	環太平洋大学体育学部 講師 斎藤 祐一
芸術(美術)	岡山大学大学院教育学研究科 教授 清田 哲男
英語科	岡山大学大学院教育学研究科 特任教授 高塚 成信

④研究計画書の作成

各教科の取り組みが計画的なものとなるように、5月初旬に各教科が「研究計画書」を作成し、1年間を通して計画的に取り組めるようにした。

教科	実施日	中学校授業者 (学年・教科)	高校授業者 (学年・教科)
国 語	9月24日 (金) 10月22日 (金)	頓宮 佳子 (1年・国語)	遠藤 摂夫 (1年・古文) 大久保達也 (2年・現代文)
社会科 地歴公民	2月14日 (月) (中止)		小池 毅 (1年・世界史 A)
数 学	11月18日 (木)	尾川 晃平・奥村 剛士 (2年・数学)	川北 将司 (1年・数学 A)
理 科	11月12日 (金)	塩飽 修身 (3年・理科)	
芸 術 (美術)	11月5日 (金)	八木 真喜子 (1年・美術)	
保健体育	11月11日 (木)		岡本 則清 (1年・保健)
英 語	6月25日 (金)		斎藤 広章 (3年・コミュ英Ⅲ)
	11月5日 (金)	西澤 寛・松原 弓子 (3年・英語)	山本 浩史 (1年・コミュ英Ⅰ)

#### ⑤研究紀要「操山論叢」の発行

今年度、中高の統一テーマのもと、1年をかけて研究・実践を行ってきた。その成果発表の場として操山中高教育研究会を行ったが、本校の取組を見ていただけるのは参加者に限られる。そこで、本校の取組を広く知ってもらい、各学校の取組の参考にしてもらうため、7つの教科の1年間の研究の成果を研究紀要「操山論叢」にまとめ、年度末には県内の教育機関（岡山市内の中学校、県下の高等学校等）に配付する予定である。

#### ●各教科の主な実践

- (1) 国語：9／24中：ジグソー活動やクロストークを行い、清少納言の人物像を考える  
高：百人一首と J-POP をもとに、普遍的なものの見方・考え方を捉え、  
古典に親しむ  
10／22高：意見文の相互評価を通して自分の文章の特徴や課題を自覚する
- (2) 地歴公民：2／14 (中止)
- (3) 数学：11／18  
中：関数と図形の知識を使って正確な座標の求め方を知る  
高：各地点 (A, B, C) の初期微動継続時間から震央・震源を特定する
- (4) 理科：11／12  
中：身の回りの現象：鏡に映る物体の見え方 (像) を学ぶ
- (5) 保健体育：11／11  
高：欲求と適応機制を学び適切な対処の仕方を学ぶ
- (5) 芸術 (美術)：11／5  
中：単純化や省略等を使ってアイデアスケッチを工夫する
- (6) 英語：6／25, 11／5, 2／10 (中止)  
6／25 (校内研修)

- 高：ウオーター・フットプリントの概念を理解し，世界における日本の立場を考える  
11 / 5
- 中：「やりとり」を意識しながら，自分の考えや意見を伝え合う
- 高：学んだ内容について，具体的に英語を使って表現できる

### ●具体的な取り組み（例）

（例1）国語：相互のフィードバックによる意見文作成のPDCA

- ・「意見文の相互評価」の前段階として教科書の課題文を読ませ文章評価を行い，自由記述でFormにコメントさせた。
  - ・生徒のコメントの傾向を5つの観点に分け，全体にフィードバックし，授業者が意見文作成の際の助言を与えた。
  - ・文章評価というタスクを与え，深い読みからの「幅広く深い教養」・「課題発見・解決能力」の育成，さらには自律的な学習調整を行うことで，「主体的に行動する力」の獲得をねらった。
- 指導観（公開授業より）

本校は一人一台端末でChromebookを活用した学習を進めている。本単元でも活用していきたいが，以下の通りGoogleドキュメントとGoogleフォーム，紙のプリントを学習内容に合わせて用いたい。

- ・Googleドキュメント：第一次のチェックシート作成，第二次の意見文作成，第三次の振り返り等  
Googleドキュメントは自分の手元にいつもあるノート代わりのものであり，活動の流れの見通しが立ち，かつ振り返りがしやすいように作成する。教師が生徒の活動状況を常に把握でき，生徒同士で共有し相互評価する際に印刷する必要がないことも利活用のポイントである。
- ・紙のプリント：第一次の題材文の読解，第三次の相互評価の際の評価シート等  
読むこと，書くことの身体性を担保するためにも，紙で読む，紙に書く場面は大切にしたい。文章に線を引く作業は，自分の手で直観的に行わせたい。また，自分の字で書き，クラスメイトの字で書かれたコメントがやりとりされることが，生徒の対話性や学びへ向かう姿勢にもつながってくる。と考える。
- ・Googleフォーム：第一次の題材文の評価，第四次の書くことについてのまとめの共有等  
クラスで即時的に共有したいものは，Googleフォームを用いるようにする。共有に時間がかからず，評価等の数値化できるものはグラフとなって表示される。文章でまとめた自分の考えも，共有することで，全ての生徒の意見を見ることができ，数名指名する場合よりも，価値ある意見が拾えたり，全体の傾向が把握しやすかったりと，学びを深めていくきっかけになりやすい。

本時案（第三次第1時）

目標	読み手からの助言をふまえて、自分の文章の特長や改善点を捉え直すことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕（A書くこと（1）カ）	
学習活動	指導・支援上の配慮事項等	評価規準
1. 本時の目標を知る。	・本時の目標を告げる。	
意見文の相互評価を通して自分の文章の特長や課題を自覚しよう。		
2. 評価基準の目安を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・chromebookで共有された意見文のうち、各自の出席番号の前後5人の意見文を読み、おおよその評価基準にあたりをつけさせる。</li> <li>・クラスのチェックポイントが書かれた評価シートを配布する。</li> </ul>	
3. チェックシートをもとに、意見文の相互評価をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4人の班を指定して、班員の意見文を評価シートに記入する。</li> <li>・甘辛クジを引かせ、評価すべき点、改善すべき点を積極的にコメントさせる。</li> <li>・書き手の意図が意見文から伝わるか、考えさせる。</li> </ul>	
支援の必要な生徒には、自分の意見文と比較させ、どのような点が異なっているかに着目させたり、書き手の意図を読んで感じたことをもとにコメントさせたりする。		
4. 自分の意見文に対する他者評価から、自分の文章の特長や改善点を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と違う立場の意見文を読んで、納得出来たか等、自由に話す時間を少しとり、緊張をほぐす。</li> <li>・渡された評価シートを読み、自分の文章の特長や改善点を、ワークシートにまとめさせる。</li> <li>・他者の意見文を読んで気づいたことや、参考にできそうなことをまとめさせる。</li> </ul>	<p>[思考・判断・表現] ① 「記述の分析」ワークシート（振り返りの記述）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み手からの助言をふまえて、自分の文章の特長や改善点を捉え直している。</li> </ul>
(C)と判断される生徒には、評価者に口頭で直接説明してもらうように指導する。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時は、振り返りをもとに、意見文を書き直し、書くことについて自分の考えをまとめることを伝える。</li> </ul>	

(B)と判断する生徒の例

自分の文章の特長や改善点を適切に捉え直し、振り返りに記述している。

(A)と判断する生徒の例

自分の文章の特長や改善点を的確に捉え直し、十分に振り返りに記述している。

## □成果と課題

一人一台端末として本校が導入している Chromebook の活用効果は、指導案の指導観で期待した通りのものが見られた。特に、紙媒体なしで全員の意見文を閲覧できるので、本授業のようなグループでの共有にとどまらず、様々な授業展開の可能性があると感じた。書くテーマとして教材文と同じ「はかる」ことを設定したが、都道府県魅力度ランキング等の時事問題に触れたり、科学に倫理的視点から疑問を投げかけたりする生徒もおり、自分の科学論を持つきっかけになっていた。ただ、生徒の中には、書くことがなかなか浮かばない生徒もおり、「はかる」という統一テーマで書かせることの難しさもあった。さらに、今回の目標として、書き手としての意図を持って、内容や表現を工夫するということも設定した。そのため、意見文だけでなく、書き手としての意図を説明させた。読み手に与える印象を考えて書き出しを工夫したり、読み手にとって馴染みのある具体例を考えたり、印象的な一文をまとめに使ったりする等、高校生という読み手を想像して意識的に書くことができている生徒が多かった。課題としては、本時内で生徒同士の意見交換ができなかったことである。どのような点が伝わり、また伝わらなかったのか、書き手の想定していない読み手の反応を対面でやりとりする時間が、書き手としての学びを深めていく。本時内にこの時間が充分とれなかったのが残念であった。

授業後の研究協議では、ICTを活用した書くことの指導の一つのモデルとして評価された。しかし、活動が成立してしまう分、指導学年に合わせた内容や目標の設定がいつそう大切になる。また、一人一台端末の導入によって、学校だけでなく、あらゆる場所で学習可能になっており、授業という人が集まる場で何をすべきなのか、対面でのコミュニケーションや、意見をすり合わせて対話していく時間の設定が求められるという意見もあった。書くことの指導については、従来と変わらず、テーマ設定が自分事であるかどうか、実の場が設定されていたかが議論となった。その意味では「はかる」という統一テーマに必ずしもこだわる必要はないという意見も上がった。さらに、評価基準も、今回のような文章としての善し悪しを評価する一般的なものではなく、学習者の目標に合わせた基準設定が必要であると感じた。

### (例2) 数学：空間図形と平面図形の知識を応用した教材開発

- ・協働学習を通して、空間図形と平面図形の関係性を論理的に考察することができた。
- ・その知識を応用し、架空の地震について3つの地点の初期微動継続時間から震央・震源を特定する授業を実践することができた。
- ・身の回りの現象と数学的ものの見方・考え方を結びつけ、課題を発見し解決する力、コミュニケーション能力の育成をねらった。

## □概要

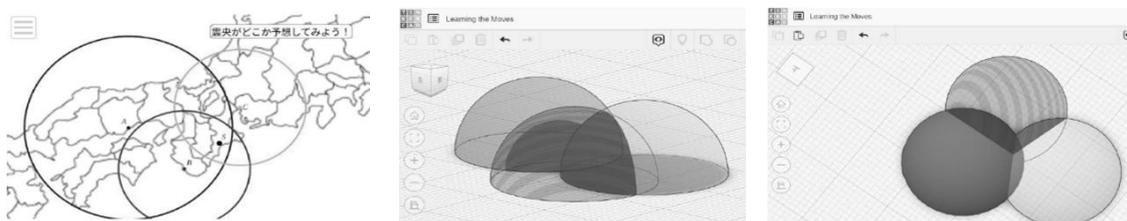
課題学習の課題は、「各地点での初期微動継続時間から震央・震源の特定」とした。

震央の特定については、各地点からの震源からの距離をもとに円を描き、それぞれの円の共通弦の交点が震央になる。また、震源の特定については、震央からの深さを求めるにあたって、三平方の定理を用いる方法が考えやすいが、方べきの定理を用いても求めることができる。

前時では、平面図形に関する復習をはじめ、3つの円の共通弦が必ず1点で交わることを証明した。また、この性質が本時では空間図形として活用されることを踏まえ、実際に三角錐を作製して、視覚的に捉えられるように支援した。

本時では、Grapes で震央の移動の規則性を考えさせたり、TinkerCAD で空間図形を様々な角度から捉えられるように活用したりした。また、実際に発泡スチロールでできた球体を渡すことで、手に取って見るができるようにした。最初に震央や震源についてイラストを

用いて、基本事項を確認したことにより、震源の深さについては直角三角形から三平方の定理で求める生徒が多かった。しかし、最後に発泡スチロール球を合わせて、方べきの定理を活用する別解に気付けた生徒もいた。



指導案作成に際しては、10月12日・11月4日に岡山大学教育学部を訪問し、アドバイザースタッフの岡崎正和先生に指導助言をいただいた。

また、授業当日には岡崎先生に参観・指導講評をしていただいた。新型コロナウイルス対策で校外からの参観は少なかったものの、中高の教員は多く参観した。

#### □目標達成状況

本時の目標は

- 既習事項を用いて、空間図形と平面図形の関係性を論理的に考察することができる。

(数学的な見方や考え方)

- 協働学習を通して、前時で学んだ定理や性質を身近な事象に活用することができる。

(数学的な技能) 【課題発見・解決能力】

前時の証明については今までにはない内容で難しい課題だったこともあり苦勞していたが、既習内容を活用できないかを班で協力して試行錯誤していた。空間図形と平面図形の関係性を実際に三角錐を作製することで多くの生徒の理解度が深まったようだった。本時では chromebook を活用したり、手に取れる物を活用したことで生徒の興味関心を引き出せたようだった。

最終的には授業者が誘導しながら別解を導いたが、多くの生徒が納得して終えることができた。

#### □生徒の感想

- ・めちゃくちゃ楽しかったです。学んだことの破片が繋がったのが面白かったです。
- ・とても内容の濃い授業で、一時間とは思えない充実感があった。とても楽しかったです。
- ・最初の震央、震源の話から最近習った数学に繋がっていたのがびっくりした。グレース等を使って座標上での図や3Dのグラフがわかりやすく楽しい授業だった。
- ・すごく楽しい授業だった。
- ・Chromebook を活用してめちゃめちゃ楽しかった 色々な見解があるのは魅力的ですね すごく楽しい授業だった。方べきの定理と結びついていると自分で理解できたので良かった。机をつけることでわからないところを相談できたので良かった。
- ・Chromebook を活用した授業はとても新鮮で面白かったです。地震の見方が少し変わったと思います。
- ・前回の授業で学習したことを含め、どんな求め方があるかよく考える事ができました。計算は大変でしたが、最終的に値が出たときは感動しました。
- ・発泡スチロールの模型が、共通弦を知るのにとってもわかりやすかった。

- (例3) 理科：身近におこる現象を取り上げ、科学的に検証・理解するための仕掛け案の作成  
・中学校、高校を通して6つの資質・能力に基づいた仕掛け案を作成した。(資料)  
・「凸レンズの働き」の実験を通して、変数を見だし、見通しを持った実験を行い、理解を深めることができた。

### ●英語力を向上させる取組

教科のテーマを「技能と教養をバランスよく伸ばす指導法の研究～生徒の振り返りを活用した授業改善」と設定し、英語科の統合技能 Can-do List「SACLA」と「SOZAN Global Can-do List」の活用、中高接続を意識した授業実践の公開、学習者と授業者のPDCAの確立を目標として次の取り組みを行った。

#### □Google Form を使った Achievement Check Sheet による自己評価とその効果

令和2年度入学生から一人一台 Chromebook を持ち、授業やHRで活用していくこととなった。レッスンの終了時に本文の内容を扱いながら、技能面・資質面両方の自己評価を行ってきた。1年生ではスキルに重点をおいた自己評価を行っていたが、この2年生では技能面① retelling②要約③Blank-filling, 資質面④幅広く深い教養⑤主体的に行動する力⑥自他を尊重する心に絞って自己評価を行い蓄積した。

#### □令和3年度入学生(2年生)の変容(例)

(1) 生徒の変容：再生活動をベースに授業を組み立て、内容理解と技能伸張さらには学んだことを元に即興的なやりとりにつながるかどうか確認するために、次の5つの活動を自己評価に組み入れ、レッスンの最後に行いその場で Google Form にチェックし、Lesson 2 と Lesson 6 でその変容を見た。

※各項目 Level 1~Level 4 まで評価規準を設定し、その平均値で発展クラス・標準クラスの変容を見た。

ア) Story-retelling：各パートにおいて、内容理解終了後、絵またはキーワードを見ながら、1分間に60語以上のスピードで話の内容を英語で伝えることができる。

Level 1：50%以上の正確さでできない。

Level 2：50%以上の正確さでできる。

Level 3：80%以上の正確さでできる。

Level 4：90%以上の正確さでできる。

##### 【平均値の変化】

・標準クラス：Lesson 2 2.43 → Lesson 6 2.83

・発展クラス：Lesson 2 3.06 → Lesson 6 3.05

イ) Summary：各パートの内容を50語程度の英語でまとめることができる。

Level 1：45～55語で書くことができない。

Level 2：50語程度であるが、内容や英語において改善点が多く、理解しにくい。

Level 3：50語程度で内容や英語において改善点はあるが、まずまずの出来である。

Level 4：50語程度で要旨を捉えており、わかりやすく、正確に書くことが出来る。

##### 【平均値の変化】

・標準クラス：Lesson 2 2.75 → Lesson 6 2.56

・発展クラス：Lesson 2 3.09 → Lesson 6 3.13

ウ) Blank-filling : 各パートにおいて、十分な音読活動の後、80%埋めて音読することができる。

Level 1 : 50%以上埋めて読むことができない。

Level 2 : 50%以上埋めて読むことができる。

Level 3 : 80%以上埋めて読むことができる。

Level 4 : 100%埋めることができ、モデル音声の速さでスラスラと読むことができる。

【平均値の変化】

・標準クラス : Lesson 2 2.28 → Lesson 6 2.73

・発展クラス : Lesson 2 3.23 → Lesson 6 3.04

エ) 幅広く深い教養 (ペアワーク) : 教科書の単元に扱われている話題について、英語で説明できる。

Level 1 : 日本語を半分以上使用しながら説明することができた。

Level 2 : ほとんど英語でできた。

Level 3 : すべて英語でできた。

Level 4 : すべて英語でできただけでなく、自分の知識や表現を加え説明できた。

【平均値の変化】

・標準クラス : Lesson 2 2.11 → Lesson 6 2.53

・発展クラス : Lesson 2 2.79 → Lesson 6 3.04

オ) 幅広く深い教養 (ペアワーク) : 教科書の単元に扱われている具体的な内容について、英語で説明できる。

Level 1 : 日本語を半分以上使用しながら説明することができた。

Level 2 : ほとんど英語でできた。

Level 3 : すべて英語でできた。

Level 4 : すべて英語でできただけでなく、自分の知識や表現を加え説明できた。

【平均値の変化】

・標準クラス : Lesson 2 2.03 → Lesson 6 2.31

・発展クラス : Lesson 2 2.89 → Lesson 6 3.00

カ) 主体的に行動する力 (グループワーク) : 教科書の単元に扱われている話題に関連する発展的なテーマについて話し合うことができる。

Level 1 : 自分の考えを英語で表現することが少ししかできなかった。

Level 2 : 自分の考えを簡単な英語で話すことができた。

Level 3 : 自分の考えを知っている単語を駆使してなんとか英語で表現することができた。

Level 4 : 自分の考えを単元で学んだ語彙の質を維持しながら、様々な視点から表現することができた。

【平均値の変化】

・標準クラス : Lesson 2 1.92 → Lesson 6 2.31

・発展クラス : Lesson 2 2.78 → Lesson 6 2.98

キ) 自他を尊重する心 (グループワーク) : 教科書の単元に扱われている話題と自分たちの社会とをつなぐテーマについて話し合うことができる。

Level 1：日本語・英語半々でやりとりをすることができた。

Level 2：一部日本語は使用したが、それ以外は英語でできた。

Level 3：すべての意見交換を英語でおこなうことができた。

Level 4：様々な視点から課題を捉え、相手の意見を尊重しながら自分の意見を的確に相手に伝えることができた。

#### 【平均値の変化】

・標準クラス：Lesson 2 1.90 → Lesson 6 2.24

・発展クラス：Lesson 2 2.82 → Lesson 6 2.93

※標準クラスはほとんどの項目において伸びが見られる。昨年度 Story-retelling で伸び悩みがあったが、今年度再生活動にも慣れ、スキルを順調に伸ばしている。スキルが全般的にまだ低い。

Retelling 1～2 単語のフレーズで詰まりながらしゃべっている→4～5 単語のフレーズでいえるようにする。流ちょうさとイントネーションに配慮しながら指導していくことが望まれる。

※発展クラスはほとんどの項目において伸びが見られなくなった。即興性の点で特に顕著であり、単に単元の内容を再現する活動に関してはスキルを保っている一方で、その場で自分の考えを即興的に述べる場面では流ちょうさ、語彙レベルともにレベルが下がってしまう。覚えたことを言いつばなしにする傾向が強い。「聞く→コメントを返す/確認する→自分の考えを述べる」といった「やりとり」に重点を置いた練習も必要である。

#### 【全体平均（ア～キの平均）】

・標準クラス：Lesson 2 1.9 → Lesson 6 2.3

・発展クラス：Lesson 2 2.8 → Lesson 6 2.9

#### 【自己評価の目標数値（3年6月までに）】

・標準クラス：3.0 発展クラス：3.5 と設定し、自ら学ぶ姿勢につながるよう生徒にフィードバックしていく。

（2）自由記述に見る生徒の変容：Google Form には自分の学習に対する振り返りを具体的に書く項目も設けている。その中で、生徒たちは自分の英語学習における課題を見つけ、具体的に対応策を考えるようになってきている。今年度はコメントに頻繁に現れるキーワードを次の4つのカテゴリーに分類し、その変容を見た。（のべ数での割合を示す）

ア) 学習の仕方：予習・復習等、日々の授業への準備に関する記述

イ) 内容について：単元の内容に関しての興味・関心にかかわる記述

ウ) 技能について：4 技能や活動（要約や Story-retelling 等）に関する記述

エ) その他：文法やテストの点数等についての記述

（\*具体性：具体的な記述となっているか）

#### 【標準クラス（%）】

ア) Lesson 2：49.4% → Lesson 6：53.2%

イ) Lesson 2：14.6% → Lesson 6：24.7%

ウ) Lesson 2：29.1% → Lesson 6：24.1%

エ) Lesson 2：25.9% → Lesson 6：9.5%

\* Lesson 2：45.6% → Lesson 6：27.8%

※単元の内容に関する記述が増えている。興味・関心を引き出しながら身の回りのことに関連付ける授業展開が少しずつ効果をあげている。

具体的な記述について割合を下げている。基本的に具体的な記述はほぼほとんどの生徒

に見られるが、「具体性」の捉え方が以前より厳しくなったことが原因である。興味関心をベースに学習調整を行っている様子を捉えていきたい。

【発展クラス (%)】

ア) Lesson 2 : 58.4% → Lesson 6 : 45.6%

イ) Lesson 2 : 16.0% → Lesson 6 : 36.8%

ウ) Lesson 2 : 22.4% → Lesson 6 : 20.8%

エ) Lesson 2 : 15.2% → Lesson 6 : 16.8%

\* ) Lesson 2 : 31.2% → Lesson 6 : 25.6%

※単元の内容に関する記述が増えている。興味・関心を引き出しながら身の回りのことに関連付ける授業展開が少しずつ効果をあげている。

具体的な記述について割合を下げてきている。基本的に具体的な記述はほぼほとんどの生徒に見られるが、より深い振り返りを期待するあまり、指導者側の捉え方が以前より厳しくなったことが原因である。興味関心をベースに自主的な学習や工夫につながる仕掛けを考えていきたい。

(3) GTEC スコアによる検証

GTEC_R3年度(2019年度入学生) 結果(3年生)トータル							
CEFR-j	スコア	2019/12/1(1年次)		2020/12/5(2年次)		2021/6/12(3年次)	
		単純	累積	単純	累積	単純	累積
B2	1190~	0	0	3	3	3	3
B1.2	1060~	8	8	21	24	41	44
B1.1	960~	32	40	65	89	65	109
A2.2	810~	143	183	128	217	130	239
A2.1	690~	86	269	46	263	21	260
A1.3	520~	4	273	1	264	1	261
A1.2	370~	0	273	1	265	1	262
A1.1	270~	0	273	0	265	0	262
Pre-A1	0~	0	273	0	265	0	262
平均		860		914.2		943.4	

どの学年も生徒の自己評価と GTEC の結果を活用しながら授業改善を行っている。3年生の結果から、順調にスコアを伸ばしていることが確認できる。1年生の平均スコアがすでに高い状態であるが、約80点以上の伸びを記録している。さらに、4技能とも概ねバランスよく伸ばしており、3年生での GTEC 受検を12月に設定すれば、約100点の伸びも期待できる。目標を高く設定し、その目標に適切なタスクを継続すれば、順調に技能は伸びることを示すことができた。